

「研究会」製作県内第1号 改造EV お披露目



県庁前でお披露目された改造EV

東北初、ナンバー取得

県内の中古車販売会社や自動車整備会社、電子部品メーカー、県立大などでつくる「あきたEV研究会」(鎌田学会)

長)が製作した改造電気自動車(EV)が22日、県庁正面玄関前でお披露目された。国が定めたガイドラインに基づき、中古のガソリン車を改造して製作したEVとしては、東北で初めてナンバープレートを取得。公道走行が可能になった。

試乗した佐竹敬久知事は「スピードの変化が見事で、乗り心地も良かった。通勤や近くの買い物に行くための車として十分に将来性はあると思う。ビジネス化に向けて後押ししていきたい」と話した。

同研究会は、ことし7月に秋田新電元(由利本荘市)や山崎ダイカスト(美郷町)など16社3団体が参加して発足。改造EVの製作に着手していた。

同研究会によると、計算上の最高時速は約120キロ、約7時間の充電で約60キロ走る。災害などで停電した際には蓄電池としても利用できる。完成した車は部品の実証試験や自動車整備士など関連

産業の教育研修などに使われる。

県庁前では、来庁者や県職員らが会員たちから説明を受け、試乗した。鎌田会長(中古車販売・ドラグリーン社長)は「改造EVの認知度はまだまだ低く、今は実験段階だが、県内企業の技術力を結集させて、改造EVの製作キットメーカーを立ち上げたい」と話している。(長田雅巳)